

## 創刊号

誇りある国づくりをめざす北海道のオピニオン誌

# 北海道の息吹

平成25年4月

1

ごあいさつ 日本国議北海道本部 会長 中川義雄	01
日本会議とは	01
ごあいさつ 日本国議北海道本部 理事長 田下昌明	02
日本会議北海道本部 平成25年度の活動方針及び事業計画	03
【活動報告1】建国記念の日 奉祝道民の集い	04
街宣活動レポート	04
【活動報告2】今、改めて「明治の精神」を考える	05
【連載コラム】熱血札幌市議・川田が行く、	06
平成24年度 日本国議北海道本部主催／行事・活動一覧	07
教科書に載せたい「北海道の偉人」	08
【連載コラム】日本の危機 いかにして国土を守るべきか、	08
わたしと日本会議	09
日本会議北海道本部規約	10
知っておきたい北海道のはなし『占守島の戦い』	10
イベント告知、入会のご案内	11

日本会議北海道本部

# 「強い日本を取り戻すために」――機関誌「北海道の息吹」創刊によせて――

「内憂外患、交々来る」――という言葉がありますが、国内外にはいま、有形無形の様々な危機が山積し、戦後最大の国家的試練に立たされていると言つても誇張ではないと考えます。

とりわけ、わが国を取り巻く安全保険環境は、中国、北朝鮮の直接脅威に晒されてまさに危うく、東日本大震災以降に惹起した新たな「エネルギー危機」は、わが国から富と活力の源泉を涸らすことにもなりかねません。

他方、経済・金融のグローバル化は、ますます加速度を強め、世界に伍して国運の隆昌を保持するには尋常ならざる知恵と覚悟が求められています。

「強い日本を取り戻す」――。そのためにまずは、我々日本国民各々が誇りと気概と独立心に裏打ちされた「強い日本人を取り戻す」自覚と再生こそが、今の時代の究められています。

「強い日本を取り戻す」――。そのためにまずは、我々日本国民各々が誇りと気概と独立心に裏打ちされた「強い日本人を取り戻す」自覚と再生こそが、今の時代の究められています。

「日本会議北海道本部」は、日本会議の綱領に則り、わが国の歴史、國柄、伝統を尊重し、その価値觀に根差した政治・文化活動の多彩な展開を目指しています。グローバル時代の只中にあって、いかにして日本のアイデンティティーや國柄を守りつつ国際社会で国家・国民の個性を發揮していくか。我々日本会議は、その困難な解答を、わが国の悠久なる「歴史の地層」を濾過し沈澱した「民族の叡智」から見出そうとするものです。

どうか、こうした理念・精神に共感を覚える方々が一人でも多く参加・結集し、本会が今後飛躍的に充実発展することを心から願つてやみません。

## 「北海道の息吹」創刊によせて



日本会議北海道本部  
会長 中川義雄  
昭和13年広尾町生まれ。  
前参議院議員。北海道議  
会議員(5期)、北海道議  
会議長(第20代)、法務  
大臣政務官、内閣府副大  
臣などを歴任。

今日我が国は、内政、外交いずれにおいてもさまざま、しかも重大な課題を抱えており、まさに明治初頭のような国難にさらされています。中でも重要なのは金融資本の国境を越えた暴走です。これに対応するには、細心の注意と大胆な決断が必要です。というのは、金融資本が暴走すると、国の政治と経済が乖離して、政治が経済を制御するのが困難になるからです。そうしてこれに手をこまねいていると、「規範なき社会」が発生してしまいます。そうすると地域の伝統文化が破壊され、それに付随する。だから環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)への対応には特に慎重でなければならないのです。

日本会議北海道本部  
理事長 田下昌明  
昭和12年旭川生まれ。北海道大学医学部卒。現在、医療法人歓生会長。著書に「真っ当な日本人の育ての方」(新潮選書)ほか多数。

### 規範喪失

このような状況において、我が国に直接影響を与えるのはアメリカ合衆国と中華人民共和国です。ところで中華人民共和国には遺跡はありますが、文化はありません。従つてこの両国に共通する規範もありません。だからこの両新興国とも文化的に失うものは何もないのです。従つてこの両国に共通する規範もありません。両国が共有できる基準は「モノ」と「カネ」だけです。

しかしながら、この両国の「モノ」と「カネ」には圧倒的な力があり、言ってみれば、あの「神の見えざる手」は今や「悪魔の見えざる手」と化しています。

悲しいかな現在、我が国はこの

「悪魔の見えざる手」の、怒濤のよ

うな圧力に押し流されており、稻作を文化の中心として悠久の太古より現在に至るまで我が国に貫して流れる国家の根本規範を見失っています。その結果、現在の日本では「価値観の多様性」という欺

平成二十二年七月十七日、臓器移植法が改正され、家族の承諾があれば十五歳未満の者からの脳死下での臓器提供が可能となりました。人間が人間の死の判定を他人に委託することができるというのに、本当にこれでいいのでしょうか。成人が自分の脳死の判定を他人に委ね、その臓器を提供するのは本人の自由だし勝手です。しかし子供の能力はありません。さらにしあがめることができるのでしょうか。承諾するのが親である場合、その決定権は親権を依り拠としているのでですが、親には子を養育していく義務がまず最初に存在しています。その親に親としての権利があるとすれば、それは養育義務から発生した権利、すなわち子を生かすための権利でなければなりません。決して子を殺す権利でもなければ、まして遺体を物体として扱う権利でもないはずです。改正臓器移植法は、まさに規範なき妥

協の産物です。

瞞、またこれを言い訳とする「損得と妥協」、これが唯一共有できる基準となってしまいました。

瞞、またこれを言い訳とする「損得と妥協」、これが唯一共有できる基準となってしまいました。

国家観の確立と祖国の再興

損得と妥協を共通の基準としていたのでは、個人の事から国家の事まで、ありとあらゆる事態に対して、とれる方法は譲歩しかありません。加えて日本人には「相手と仲良くしようと思うあまり、相手に好かれようとする」悪い癖があります。これらが今日の我が国に交じて、それ故に示すことができました。これまで、ありとあらゆる事態に対し

いたのでは、個人の事から国家の事まで、ありとあらゆる事態に対して、とれる方法は譲歩しかありません。加えて日本人には「相手と仲良くしようと思うあまり、相手に好かれようとする」悪い癖があります。これらが今日の我が国に交じて、それ故に示すことができました。これまで、ありとあらゆる事態に対し

いたのでは、個人の事から国家の事まで、ありとあらゆる事態に対し

### 日本会議とは

「日本会議って右翼団体なんですよ!」とか「一体何の会議をするの?」って聞かれることがあります。そこで日本会議北海道本部が独自で機関誌を発刊するにあたり、本会をよく知らない方のために簡単にご説明致します。私たち「日本会議」は、前身団体である「日本を守る国民会議」と「日本を守る会」とが統合して、平成9年5月に設立され、全国47都道府県に本部を、207の地区に支部ネットワークをもつ会員数約3万人の国民運動団体です。国内外に前途多難な多くの諸問題を抱え、国家の危機に直面しているいま、私たち日本会議は、美しい日本を守り伝えるため、「誇りある国づくり」を合い言葉に様々な行動しています。

#### ■ 誇りある国づくりのための行動とは

- 皇室の伝統を守る国民運動を推進し、建国をお祝いする行事を開催
- 誇りある国づくりへ、新憲法の制定をめざす
- 領土、領海を防衛する法整備、体制をめざす

- 新教育基本法に基づき、愛国心教育の実施など教育改革を推進
- 英霊に感謝し、靖国神社を守る運動を推進
- 子供と家族を守るため、男女共同参画条例の是正につとめる

#### ～日本会議綱領～

- 一、我々は、悠久の歴史に育まれた伝統と文化を継承し、健全なる国民精神の興隆を期す。
- 一、我々は、國の榮光と自主独立を保持し、国民各自がその所を得る豊かで秩序ある社会の建設をめざす。
- 一、我々は、人と自然の調和をはかり、相互の文化を尊重する共存共榮の世界の実現に寄与する。

#### ■ こんな活動もしています!



平成25年1月、「尖閣を守れ!」街頭署名活動や街宣活動を全国各地で実施。

日本会議北海道本部 平成25年度の活動方針及び事業計画



# 建國記念の日 奉祝道民の集い 大盛会のうちにおわる

日本会議北海道本部では、2月11日午後1時から、ロイトン札幌で毎年恒例の「建国記念の日奉祝道民の集い」を開催し、約600名が出席しました。札幌北響太鼓による勇壮なオープニングセレモニーにはじまり、第二部式典では、主催者を代表して中川会長が挨拶、続いて日本会議北海道地方議会懇談会の釣部会長が式辞を述べました。引き続き日本大学法学部教授の百地章氏による「今なぜ、『憲法改正』なのかー建国記念の日に、『日本再生』を考える」と題した講演が行われました。百地教授は、「個人を絶対視する戦後の価値体系が今日なお日本人を呪縛しており、その根底にある

現行憲法を改正しなければ日本  
の国柄・伝統は崩壊してしまう」  
と述べ、憲法改正の必要性について  
て時にはジョークを交えながら熱  
くお話しいただきました。講演は定  
刻ピッタリに終わり、百地教授は  
これを「帝国」？主義とおっしゃ  
り、会場は笑いの渦につまられまし  
た。政権交代後、憲法改正への機  
運が高まるいま、次の参議院選挙  
に向け我々も積極的に諸活動を  
進めて行かねば、との思いを強く  
しました。このあと、奉祝パレード  
が行われ、出席者はさっぽろ雪ま  
つりで賑わう大通り4丁目までの  
約1kmの道のりを国旗小旗を振  
りながら行進しました。

街宣活動を通して、井戸の輪をひろげる!



日本会議では、日行会（日本のため行動する会）と共同で月一回、街宣活動を行っています。街頭に立ち私たちの思想を訴えて共感していただくことは、健全な国民精神を興隆をするうえで大切なことです。また日本会議のことを多くの人々に認知してもらいたい、あわせて今の日本が抱えている諸問題を理解してもらうためにも必要なことです。これまでには、「尖閣」「竹島」「北方領土」「憲法」「拉致」などについて街宣活動を行ってきました。「拉致」の時には、一人の女性が「娘をもつ母親

として人ごとではありません！」  
と熱い声をかけていただき、カン  
パまでしていただきました。昨夏  
には、韓国大統領の竹島上陸と  
天皇陛下への不敬発言に対し、  
すぐに韓国領事館前で抗議の街  
宣を行い、テレビでも報道されま  
した。今後も状況に応じて迅速  
な活動を行って行きます。街頭で  
見かけた時は、声援よろしくお願  
いします。日行会の活動予定は  
表紙をご覧ください。

一 時局認識と活動方針

グローバル時代の只中にあって、国内外に有形無形の危機が迫る今日、いかにしてわが日本のアイデンティティーや国柄を守るか。世界に伍して国運を再度隆昌に導くか。我々はいま歴史的な岐路に立たされています。

とりわけ内にあつては我が國体の國柄の根幹を成す「皇室の伝統」護持。外にあつては緊迫の度を増す尖閣防衛に加え、北朝鮮による無法なる直接脅威等の國家の「安全保障問題」。これは國家の尊厳と主権の核心に関わる極めて大きな現下の命題だといっても過言ではありますせん。

ちは、日本の歴史と民族の観智をバックボーンとし、日本人本来の民族性や伝統的な価値観に根差した「保守の論理」に則り、第一に「国と郷土」を愛する会員の拡大に努めます。第二に「道内各界・各層の保守系人士との連帯と結束」を促すことによって、会員増強と組織の拡大を期し、時局を踏まえた様々な政治的・文化的な啓蒙・啓発活動を企画し展開します。

二 事業計画と具体的活動内容

## 1.「会員倍増計画」への取り組み

- (イ)昨年来実施してきた各種のイベントに、名刺広告を掲載または活動支援金を賛助いただいた「企業」「団体」に対し、個別訪問による入会依頼活動を実施します。

(ロ)有力企業・団体に対し、「維持会員」、「篤志会員」を個別訪問依頼によって募り、会員拡大と経常経費の財源確保を目指します。

2. 大規模イベントの企画・開催  
(イ)「建国記念の日 奉祝道臣の集会」の開催(2月)

開講座」の企画・開催  
年2～3回一般道民を対象した有料の「公開講座」を人前後の規模で企画・開催  
日本会議北海道本部の存在をアピールします。主と「憲法」「教育（再生）」「叶」をテーマに選び、また「歴物シリーズ」（仮称）も継  
催します。

ねじれ国会解消」を期し、左  
から右へ回転用機、△△△△△

し全力を傾注します。

(口) 第二回「昭和の日」記念イベ  
ントを来年度以降も継続  
開催(4月29日)

「北海道の息吹」の刊行  
「日本会議の設立趣旨」に則つた機関誌を継続・刊行し、会員の理論武装に資すると共に、会員相互の連帯と絆をふかめるツールとします。

**7. 街宣活動及びインターネットを活用した啓発活動の展開**

を設定し、街宣活動を定期的に実施。

**8. 地方支部設立に向けた組織活動の展開**

従来から活発に活動を展開してきた「上川支部」以外に、今年度からさらに積極的に「支部設立」を推進していきます。昨年来、すでに「釧路支部」「帶広支部」の結成を見たほか、北見市、稚内市、小樽市、江差町においても設立準備を進めてきた結果、昨年10月6日には「後志支部」の設立総会が開催され、今年3月23日には、「千歳：恵庭支部」と一体となつて、新たに準備を進めていく「職域支部」の設立を含め、積極的に支部結成に向け全道的な展開を図っていきます。

田行会(日本のため行動する会)  
代表 沢田英

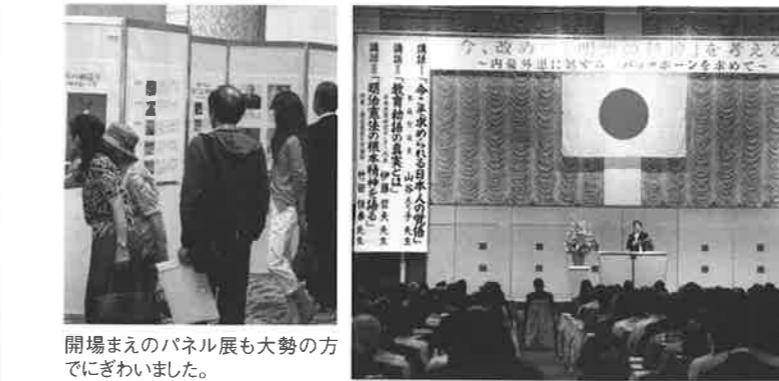
## 今、改めて「明治の精神」を考える

—内憂外患に処するバックボーンを求めて—

日時：平成24年7月16日(月・祝)午後1時／会場：ロイトン札幌大ホール

昨年は、明治天皇が崩御されて百年目の年でありました。当時の我が国は民主党政権下にあり政

治の機能不全は甚だしく、東日本大震災の復興もままならないばかりか、経済安全保障、あらゆる面で国全体がゆっくりと破局への道を進んでいる、と言つても過言ではない状況でした。



開場まえのパネル展も大勢の方にぎわいました。

我々日本会議北海道本部はこうした現状を開拓するため、我が國の悠久の歴史特に「明治の御代」における日本の精神を規範として求めるべく、標記の講演とシンポジウムを開催いたしました。講師には、多方面にわたる国家問題に幅広く活躍している参議院議員の山谷えり子先生、一貫して保守の論陣を張り続け、多数の講演や執筆活動を開拓する日本政策研究センター代表の伊藤哲夫先生、明治天皇の玄孫にして慶應義塾大学講師を務める、憲法学の若き威風の竹田恒泰先生、そして、今なお真の保守勢力結集に心を傾ける元内閣総理大臣(当時)の安倍晋三先生をお招きすることができました。「明治の精神」を語るにはこれ以上ない面々と言えましょう。

講演とシンポジウムを振り返って

山谷先生のテーマは「今こそ求められる日本人の覚悟」。古事記編纂千三百年に亘ったことにおいては北方領土、竹島、尖閣を取り巻く危機的な状況は戦後体制がもたらしたものとし、「皆さんも一緒に蘇らせましょう」と、会場に力強く呼びかけました。



山谷えり子先生

参議院議員。昭和25年生まれ。平成16年参議院議院選挙(比例区)初当選。教育再生を中心とした教育問題、領土問題など多方面にわたり活躍中。

続いて伊藤先生のテーマは「教育勅語の眞実とは」。先生曰く、明治の御代において、西洋の文化や文明が激しく流れ込むことによって日本的心が失われていくかも知れないという明治天皇の憂いがありました。そのような中、徳育の基本、規範、道徳を求めて生まれた教育勅語に込められた明治天皇の願い



竹田恒泰先生

作家・慶應義塾大学講師。昭和50年旧皇族・竹田家に生まれる。明治天皇の玄孫。著書に、「現代語古事記」「旧皇族が語る天皇の日本史」ほか多数。

講話の最後は竹田恒泰先生の「明治憲法の根本精神を語る」。先生は大日本帝国憲法と日本国憲法の第一条を様々な観点や史実から比較分析し、戦前と戦後で国体の変更はなかつたことを論証しました。天皇が存在するだけで自然と国が治まり、それが日本の国柄であるということが古事記の精神、受け継がれていることが来場者の心にしっかりと伝わりました。



伊藤哲夫先生

日本政策研究センター代表。昭和22年生まれ。新潟大学卒。平成20年より現職。著書に「教育勅語の眞実」「國家なき日本を問いかけて」ほか多数。

と折りが国民をひとつにまとめて、日清、日露戦争という国難を乗り越え、日本を世界の等国に押し上げたーそれが明治という時代であつた、と教えてくださいました。

そして、いよいよテーマ講演「今、改めて『明治の精神』を考える」、元内閣総理大臣(当時)の安倍晋三先生が最後に登壇されました。安倍先生は地元である山口県の話から下関戦争、次いで薩英戦争に触れ、言わば維新、明治の精神とは国家及び国家観の確立と独立の気概、そして日本を「流国」に何としても列強入りさせなければならぬらしいという確固たる意志から始まったのではないかと示されました。明治の精神が失われたことは、外交や領土、教育などにおける様々な問題が今日顕在化しており、それこそがかねてから先生が掲げる「戦後レジーム」の正体そのものである。いつまでも続く「敗戦時代状態」に、私たちの手で終止符を打たなければならぬ、その決意にも似た先生の言葉が会場に大きく響きました。

この国に必要とされるものであり、それを政治や教育にどうやって活かしていくべきかが熱く語られました。かの時代に日本を愛し、そして護り抜いた先達の精神を規範にして、この日本のバックボーンを築かなければならぬと。安倍晋三先生はこの日、自らが再び日本の舵取りを行うべく自民党総裁選立候補を決意したともいわれています。

この日は予想を遙かに上回る盛況で、来場者数は千三百名を超えて、結果として日本会議北海道本部史上最大のイベントとなりました。来場者の皆様からは数多くの賛同と共感をいただき、これをきっかけとして大勢の方が日本會議へ入会してくださいました。ここに改めまして、来場者の皆様と関係各位に有難く厚く御礼申し上げる次第です。

シンポジウムでは伊藤先生がコーディネーターを務め、この困難の時代においては「明治の精神」が最も



### 地方議員は、国防の要(かなめ)である。

札幌市議会議員として補欠選挙、本選挙含めて4年目となりました。普段、日本会議北海道本部の皆様方にはご支援いただいていますことに心から感謝を申し上げます。

さて、現在の札幌市政は、上田文雄市政10年となりました。外国籍住民に常設型の住民投票条例を公約に掲げ当選し、自治基本条例や子どもの権利条例などを制定させ、やるべき公共事業や除雪費を著しく減少させたことで、本年のような豪雪に対処することが困難な状況になりました。

そこで、地方議会において如何にしてチェック機能の役割を担うかが大切だという事に行きつきます。特に都道府県並みの権限がある政令都市の役目は大きく、札幌市は、192万人都市で東京を除くと全国で4番目の都市で、全国都道府県の中で21番目に大きい岡山県にほぼ匹敵するのであります。

その中で、地方分権化の中で「日本」を考えない地方議員では大変危険です。沖縄県の基地問題のように反日の思想や外国勢力に加担する地方議員が票や資金などを彼らに握られ、反日マスコミと共に犯し、国益を脅かす条例や予算執行をされると一自治体だ

けの問題だけではなくなります。

私は、補欠選挙当選後早々から札幌市民も含めて日本人が北朝鮮に拉致されている状況下において北朝鮮当局と密接な関係のある朝鮮学校に対しての札幌市からの補助金支出をやめさせるための陳情やその取組みを正すために代表質問や委員会での質問を繰り返してきました。また、アイヌ政策でも北海道の正しい歴史認識を伝えるためにも質問などをしてきました。当初は、自民党会派の中で問題視されましたが、平成25年度第一回定期議会での最終日、本会議での討論にも朝鮮学校、アイヌ政策問題が盛り込まれました。

このことは、ひとえに日本会議北海道本部の皆様方のお支えで出来たことです。地方議員は地元要望を行政に反映するのは当然ですが、国を考え、地方分権化の中で「国防の要」として仕事をすることも非常に大切です。今後も皆様方のご支援、ご指導のほどよろしくお願いします。

川田ただひさ(札幌市議会議員・厚別区選出)

連載コラム 热血札幌市議 川田が行く! ①

私は、補欠選挙当選後早々から札幌市民も含めて日本人が北朝鮮に拉致されている状況



市議会で質問に立つ川田議員

下において北朝鮮当局と密接な関係のある朝鮮学校に対しての札幌市からの補助金支出をやめさせるための陳情やその取組みを正すために代表質問や委員会での質問を繰り返してきました。また、アイヌ政策でも北海道の正しい歴史認識を伝えるためにも質問などをしてきました。当初は、自民党会派の中で問題視されましたが、平成25年度第一回定期議会での最終日、本会議での討論にも朝鮮学校、アイヌ政策問題が盛り込まれました。

このことは、ひとえに日本会議北海道本部の皆様方のお支えで出来たことです。地方議員は地元要望を行政に反映するのは当然ですが、国を考え、地方分権化の中で「国防の要」として仕事をすることも非常に大切です。今後も皆様方のご支援、ご指導のほどよろしくお願いします。



**寒地稻作の父 中山久蔵**

北海道開拓使は、ケブロンやクラークの考えをもとに、欧米型の畑作や畜産を中心とした農業をすすめるべきと、稻作を禁止し、禁止令に違反して稻作を試みた農民を逮捕もした。札幌農学校の寮の規則には、「米飯を食すべからず」とあったという。

その開拓使の稻作禁制に果敢に挑んだのが、寒地稻作の父・中山久蔵だ。

中山久蔵は大阪で武士の次男として生まれたが、明治元年40才の時北海道永住を決意。若小牧から唐米5升食塩1升少しばかりの家具農具のみを携えて、人煙を全く認めぬ森林と湿原が続く寂寥の男払原野を分け入り、シマツップすなわち現在の北広島と恵庭の市境、国道36号西側、北広島市島松に落ち着いた。

久蔵の独立独歩の厳しい生活が始まった。夜の明けないうちから木を切り倒し、熊笹の根を掘り起こして、ヒトソバなど、雑穀の種をまく。住まいは四壁がなく、風も雨も吹き通しだった。久蔵には、開拓使役人から食糧援助の話をあったが、自立の精神を失つては初心を達することはできないと、辞退したこともあるといつう。

明治6年、久蔵は道南の篤農家から「赤毛」種の種粉を入手、島松川の水を引いてはじめて水田を試作。しかし川の水は冷たく思つよう成長しない。久蔵は水路に工夫を凝らし、更に風呂を焚き湯を運び田に流し込むなど、夜も寝ないでは苦労を重ねた。島松はこうして寒冷稻作発祥の地となつた。

(公財)新教育者連盟・札幌支部長  
伊藤八郎

翌年は気候不順、またイナゴの大発生の年もあり、札幌農学校の教授が畑作への切り替えを勧める中、彼は信じる稻作の道をひたすら歩む。明治12年52歳、稻作をはじめて6年目、久蔵は収穫した種粉100俵を開拓使に献上、希望する全道の開拓移民に無償配布した。ついに開拓使は久蔵の成功を認め、稻作を危険視する考えが改まっていったのだ。

明治14年9月2日、本道を御巡幸された明治天皇は、札幌から室蘭への途次久蔵邸を行在所と定められ、一人の農民に過ぎない久蔵に米作のことを親しく御下問になつた。久蔵は恐懼しながら、中山種を欲しがる人々に無償で分かち、稻づくりのことならどんなに遠くとも出かけ、熱心に相談にのつた。

久蔵はまた、自家を駅通宿として旅人に提供したり、道路や学校の敷地などに喜んで土地を寄付し、私財を投じて橋もつくつた。入植者には、親身になって面倒をみたといつう。

「ゆめびりか」が全国的に大好評の今、「寒地稻作この地に始まる」の碑のかたわらに、有名なクラーク博士の「Boys be ambitious」の記念碑が立てられているのも、歴史的皮肉な駄として興味深いものがある。

日本人は土地(国土)の大切さを忘れていたようだ。それは北方領土、竹島や尖閣諸島の問題に対する日本の対応を見ても明らかである。国土は国そのものであり、国家が自衛隊や国際空港の隣接地も他の土地と同じように扱っている時点で危機管理意識が欠如していると言わざるを得ないが、現実として多くの問題が明らかになってきた。

土地は国土そのものであるが、日本ではそれが簡単に売買され、その土地の所有者には余りにも強い所有権が付与され、その権利は劫所有者の末代まで未来永劫に亘り引き継がれるが、その所有者が外国人であっても例外とはならない。このような「国土の切り売り」を外国人にも平気でやっている国は世界中でも日本だけである。この部分の早急な憲法と法の改正、制度の整備が必要である。

このように、戦後日本人は平和ボケをし続け国は国土の管理を怠ってきた。私は日本の森林と水資源を守るべく「北海道水資源の保全に関する条例」の制定の為に奔走をしたが、これは私がすべき仕事の一部に過ぎない。昨年施行したその条例に基づき、北海道庁は市町村から申請された「保全すべき水源」の一元管理を行いつ始めたが、既に問題が発生している。道庁は市町村が「保全すべき」とした水源の所有者に対し郵便で文書を送付したが、何とその4割強が「宛先不明」で

戻ってしまっているのだ。  
**4割の水源の所有者が不明であるという事実は衝撃的であるが、これは北海道に限ったことではあるまい。**日本全国の水資源がどのような状態になっているのであろうか。一刻も早く全国調査をすべきだ。

更に今後は土地(=国土)に関し、別の問題も発生するであろう。例えば農地であるが、農地法が改正されたことに伴い、北海道の農地も多くの農業生産法人によって買収されている。しかし、この農業生産法人が「外国資本の支配下」に置かれてしまう危険性についての議論は皆無である。また、その土地(農地)の所有者の「権利」が強すぎるために、例えば「異常気象による世界的な飢饉」が発生し、日本も深刻な食糧不足に陥った状況にあっても、農地の所有者が「作物を輸出する」とすれば、今の日本の法や制度でこれを止める術は無い。外資の意のままに動く農業生産法人が多く、農地を買収してしまったら…と考えると背筋に寒気が走るが、同時に「今までの食糧の安全保障や自給率の議論は何だったのか」と憤りを感じずにはいられない。

国家は国民と国土が無ければ成立しない。「いかにして国土を守るべきか」—これは今を生きる我々日本人に課せられた使命なのである。

小野寺まさる(北海道議会議員・帯広市選出)

連  
載  
コ  
ラ  
ム

日本の危機

いかにして国土を守るべきか

## 平成24年度 日本国会議北海道本部主催の主な行事・活動一覧

開催日	会合名・場所・内容ほか	開催日	会合名・場所・内容ほか
平成24年4月16日	<b>平成24年度 第1回理事会</b> 平成24年度事業計画、「今、改めて明治の精神を考える」企画案等を審議	9月29日	<b>街宣活動</b> 大通公園で、水島総氏を中心に川田常任理事らが弁士で参加。カンバ、書籍販売も実施
5月15日	<b>平成24年度 第2回理事会</b> 「日本会議北海道本部」規約改正、「今、改めて明治の精神を考える」企画案等を審議	9月30日	<b>「中国と韓国から日本の領土を守る緊急集会」デモ行進</b> 田下理事長をはじめ理事有志も含め大通西12~韓国領事館~大通西3丁目まで約1時間デモ行進
6月11日	<b>平成24年度 第3回理事会</b> 「今、改めて明治の精神を考える」企画案、「全国縦断キャラバン隊日程」等を審議	10月9日	<b>平成24年度 第6回理事会</b> 「規約改定」、「今後の北海道本部の組織のあり方と活動」等を審議
6月29日	<b>日本会議 北海道・東北ブロック前期理事会</b>	11月2日	<b>「皇統の危機を考える緊急集会」</b> 政府が皇室制度に関するパブリックコメントを開始するのを機に、中央本部より西澤常任理事を招き、緊急集会を開催 以後、内閣官房に対する意見書提出活動を展開
7月8日	<b>街宣活動</b> 日本会議と尖閣防衛の幟を立て街宣。「明治の精神シンポジウム」のチラシを大量配布、弁士4名	11月19日	<b>平成24年度 第7回理事会</b> 今後の「役員体制(常任理事会新設)」と会員拡大、「建国記念の日 奉祝道民の集い」の企画等について協議
7月9日	<b>平成24年度 第4回理事会</b> 「今、改めて明治の精神を考える」進捗状況、「全国縦断キャラバン隊日程」、歴史人物講話「明治天皇」開催等を審議	12月16日	<b>第一回公開講座</b> <b>歴史人物講話「乃木希典」</b> 「第一回公開講座」を開催(新教育者連盟後援)。講師:岡田幹彦氏(日本政策研究センター 主任研究員)
7月16日	<b>「今、改めて明治の精神を考える」～内憂外患に処するバックボーンを求めて～</b> 5~6ページの活動報告2をご覧ください。	12月17日	<b>平成24年度 第8回理事会</b> 「建国記念の日 奉祝道民の集い」の日程・業務分担、「昭和の日」顕彰イベントの企画・開催について協議。忘年会も開催
8月7日	<b>「全国縦断キャラバン隊活動」</b> 「皇室の伝統」と「尖閣防衛」を考える集い 大通3・4丁目で「街頭演説」。日本会議本部より講師を招き、北海道神宮「頓宮」で講演と映像上映会を開催	平成25年1月23日	<b>平成24年度 第9回理事会</b> 「建国記念の日 奉祝道民の集い」案内告知状況・動員態勢、当日の「進行次第」並びに「業務分担」等について協議
8月15日	<b>街頭演説会&amp;デモ行進</b> 韓国領事館前で、竹島の不法占拠、従軍慰安婦問題等に抗議し、川田・沢田・八尾師の三常任理事を中心に3日間に亘って開催	2月11日	<b>「建国記念の日 奉祝道民の集い」</b> 4ページの活動報告1をご覧ください
8月18日	<b>歴史人物講話「明治天皇」</b> 講師:岡田幹彦氏 主催:新教育者連盟と共催	2月28日	<b>平成24年度 第10回理事会</b> 「建国記念の日 奉祝道民の集い」の結果及び収支報告、「昭和の日」イベントの企画・予算(案)、「第1回定期総会」の開催、「機関誌」発刊について
8月20日	<b>平成24年度 第5回理事会</b> 「今、改めて明治の精神を考える」結果及び収支報告、今後の北海道本部の組織のあり方等について審議	3月18日	<b>平成24年度 第11回理事会</b> 「昭和の日」イベントの実施・運営、「第1回定期総会」の開催、「機関誌」発刊、「日本会議女性の会・北海道」について
9月28日	<b>「どうする尖閣防衛!8.19尖閣上陸を敢行して」講演会</b> 「頑張れ日本、全国行動委員会」幹事長の水島総氏を講師に招き、北海道神宮「頓宮」で緊急講演会を開催		



## 日本の周辺には「平和を愛する諸国民」っているんでしょうか!?

※平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。(日本国憲法前文より抜粋)

# 自主憲法を願う 道民の集い

入場無料

日時:平成25年 5月3日(金・憲法記念日)

開場/10:00 開演/10:30~12:00

デモ行進(12:15~)※時間は変更になる場合もあります

※自由参加

場所:共済ホール(札幌市中央区北4条西1丁目)  
TEL:011-251-7333 http://www.kyosaihall.jp/

講師:藤井 厳喜氏(国際問題アナリスト)

高木 宏壽氏(衆議院議員)

主催:日本のため行動する会(日行会)

共催:日本会議北海道本部



### ■藤井 厳喜氏プロフィール

昭和27年(1952)東京生まれ。早稲田大学政経学部政治学科卒業。在学中、哲学・思想・政治学・経済学等を幅広く研究。TV朝日「朝まで生テレビ」等にも出演。



### ■高木 宏壽氏プロフィール

昭和35年(1960)札幌生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。北海道警察にて来日外国人犯罪捜査などを担当後、道議会議員(2期)を経て、平成24年衆議院議員(北海道三区)初当選。

### ●日本のため行動する会(日行会)とは

日本の国柄と国益を守り、自主憲法制定を働きかける会です。情報と知識を共有し、品位ある行動をもって世の中に発信し続ける意志ある一般国民のあつまりです。

## 次代をになう子供たちのために。

あなたも是非、日本会議に入会しませんか!

日本会議北海道本部では、いま新規会員を募集しています。  
入会方法はとてもカンタン! 会員になられた方にはさまざまな  
特典があります。あなたの入会をお待ちしています!



### ■日本会議 会員の種類と特典

種類	年額会費	特典
正会員	1万円	月刊「日本の息吹」毎月送付。会員証発行。会員バッジ贈呈。各種行事のご案内。ご希望の方へメール情報サービス。
維持会員	3万円	月刊「日本の息吹」毎月送付。会員証発行。特製会員バッジの贈呈。本会企画DVD・書籍、カレンダーの贈呈。ご希望の方へメール情報サービス。
篤志会員	10万円以上	月刊「日本の息吹」毎月送付。特製会員証(ゴールドカード)発行。特製会員バッジの贈呈。本会企画DVD・作品DVD、書籍、カレンダーの贈呈。ご希望の方へメール情報サービス。
女性会員	5,000円	正会員と同じ。
支援会員	3,800円	月刊「日本の息吹」毎月送付。
議員会員	1万円	正会員と同じ。

### ■月刊「日本の息吹」とは

新しい視点で明日の日本の進路と、日本再発見を提言する月刊誌。北海道新聞などの偏向報道では伝わりにくいテーマを、正しい視点でとらえわかりやすく解説しているので、「読みやすい!」と大好評です。



### ●4月号の主な内容

- ◎特集:教育再生へ/屋山太郎ほか
- ◎新段階に入った東アジア情勢/佐藤守
- ◎会津・種まき桜/牧野和春
- ◎中国の尖閣領有権の妄説を撃つ/石井望
- ◎語り継ぎたい「助け合いの精神」/平野啓子
- ◎武士道精神を思う/屋山太郎
- ◎安倍・教育改革が切り拓く、新しい地平/松浦光修
- ◎連載コラム:子育て支援塾/田下昌明(小児科医)、日本会議北海道本部理事長の人気コラム

## 申込方法

## お申し込みは今すぐ!

郵便振替用紙をご用意してあります。日本会議北海道本部分室まで、お手数ですがお葉書・お電話・FAX・メール等でお知らせください。折り返し振替用紙を郵送させて頂きます。

### ●お問い合わせ・お申し込みは

## 日本会議北海道本部 事務所 (分室)

〒060-0004 札幌市中央区北4条西7丁目5番地 緑苑第2ビル402号

TEL:011-209-3022

FAX:011-209-3023

■メールアドレス:qqqr4vc9k@eagle.ocn.ne.jp